山口大学医学部&附属病院から笑顔と情報を発信するコミュニケーションマガジン

山大医学部病院だより

Yamaguchi University
Faculty of Medicine and Health Sciences

Yamaguchi University Hospital
News

患者さんが安心して医療を受けられるようサポートします

「患者支援センター」

1
2020
VOL.245

令和二年を迎えて

ご挨拶

山口大学医学部長
谷澤幸生

新年明けましておめでとうございます。

令和2年、庚子（かのえ・ね）の年である新年が始まりました。

子年は生命が誕生しようとする年であり、「庚」とは結実・形成を表すそうです。

医学部は4月に新入生を迎え、医師、看護師、臨床検査技師など医療人養成のための教育をし、その結実（成果）として3月には新しい医療職プロフェッショナルを送り出します。附属病院では、文字通り新しい命が生まれ、また、治療の結果が疾病の治癒として結実する、まさに医学部、附属病院は庚子（かのえ・ね）を象徴する循環の場であると言えます。

昨年、医学部、附属病院にはいくつか大きな出来事がありました。

3月には、新しい総合研究棟「医修館」が竣工しました。従来からある総合研究棟を「医明館」と名付け、「医修館」とともに、医学部正門を入ると2棟並んだ教育研究棟が新しい医学部のシンボルとなりました。

6月には附属病院に新病棟が開院しました。手術室、先進救急医療センター、ICU、総合周産期母子医療センターなど、高次の診療機能がさらに充実しています。

設備面のみではなく、医学部医学科は、日本医学教育評価機構による「医学教育分野別評価」を受審しました。また、よりよい医療人を養成し全国に輩出すると共に、地域の期待に応えるため、入試制度においては、地域枠を拡充しました。

研究面でも、いろいろな分野で先端的な研究が行われています。最新の細胞免疫療法の開発に加え、人工知能の医学的基礎研究や臨床研究、さらには診療への応用を目指して全国に先駆けて設置したAIシステム医学・医療研究教育センターも3年目を迎えつつあり、さらなる拡充を目指しています。

新しい時代の幕開けとなった令和元年のいろいろな取り組みをもとに、山口大学医学部は今年もさらに発展し続けて行きますので、皆様の暖かいご支援をお願い申し上げます。

ご挨拶

山口大学医学部附属病院長
杉野法広

新年明けましておめでとうございます。

山口大学医学部附属病院では、現在、国立大学病院としては初となる2回目の病院再開発整備事業を進めています。その目玉となるA棟（新病棟）が昨年の6月24日に無事開院しました。おかげさまで、大きなトラブルなく順調に稼働しています。さらに、今後もB棟（第一病棟）やC棟（外来棟）などの既存病棟の改修を「Your Health, Our Wish－あなたのために－」をスローガンに2025年に向けて行っていく予定です。

新病棟の特徴は、高度急性期医療の充実です。その柱のひとつが、1階の先進救急医療センターです。屋上ヘリポートを利用し、県内各地から重症な救急患者さんの受け入れが可能になりました。センター内にCTや血管造影装置を設置しており、迅速に検査や救急処置ができるほか、集中治療の機能も備えています。4階の手術室は、12室から16室に増室し、血管造影装置やMRIを完備したハイブリッド手術室を整備、高度な手術を迅速に提供しています。そして、3階のICUは、12床から16床へ増床、手術後の患者さんを含め多くの重症患者さんを集中管理しています。

高度急性期医療のもうひとつの柱が、6階の総合周産期母子医療センターです。新生児の病床数が4床増え、より多くの重症な妊婦さんや新生児の受け入れが可能となりました。さらに今年の3月から県内で初となる新生児ドクターカーの運用を開始します。県民の皆さんに安心していただける周産期医療を提供します。

6階から12階は入院患者さんのフロアです。見通しの良いスタッフステーションなどが特徴で、「見守りハイケア病棟」と名付けています。また、脳卒中センター、無菌室、呼吸器内科を増床しました。

新病棟は、災害時にも力を発揮します。災害が発生しても電源は確保されるので、先進救急医療センターや手術室、ICUの稼動が停止することはありません。さらに、平時は講義や講演で使用する1階のオーディトリアムは、災害時には広大なトリアージスペースとなります。

本院は、高度な機能を備えた山口県で唯一の特定機能病院です。本院でしかできない手術や検査、治療などが多くあります。県民の皆様にも、様々な機能を備えた本院に大きな期待を持っていただいていると思います。山口県の医療における「最後の砦」として、今も未来も、安心・安全な質の高い医療を提供します。

最後になりましたが、今年が皆様にとってすばらしい年になりますようにお祈り申し上げます。今年も山口大学医学部附属病院をよろしくお願い申し上げます。

2019年をふりかえる
Look Back 2019

2019

1月末［医学部］医修館完成

3月7日［医学部］医修館竣工記念式典

4月［医学部］医修館供用開始

6月5日［医学部］韓国チェジュハラ大学看護学部・保健学部と学部間国際交流協定締結

3月5日［附属病院］A棟新営工事定礎式

4月［附属病院］形成外科新設 患者支援センター設置

6月1日［附属病院］A棟竣工記念式典開催

6月24日［附属病院］A棟開院

8月9日［医学部］オープンキャンパス開催

1100人の高校生と保護者の参加がありました。

9月20日［医学部］山口県医師修学支援金貸与学生が山口県知事激励会と夏休み地域医療見学実習ｉｎ長門に参加

山口県医師修学支援金貸与学生14名が山口県庁を訪れ、知事と懇談。地域医療への志を確認。

10月28日～11月1日［医学部］医学教育分野別評価受審

10月12日［附属病院］「日本フィルハーモニー交響楽団四重奏コンサート」を開催

12回目となるコンサートをA棟オーディトリアムで行いました。

特集

患者さんが安心して医療を受けられるようサポートします

「患者支援センター」

山口大学医学部附属病院は、これまでの診療連携室、患者相談室、入退院センターの窓口を一本化し「患者支援センター」を開設しました。専任看護師16名、MSW（医療ソーシャルワーカー）8名を配置し、患者さんやご家族が安心して医療を受けられるようサポート体制を充実させました。

現在、日本は高齢化が進み今後もさらに高齢者人口が増えることが見込まれています。厚生労働省は、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。高度急性期医療を担う本院も、地域の関係機関と連携して、病気になっても患者さんやご家族の意向に沿った生活ができるよう、安心して医療を受けることができるための相談窓口、また医療機関や市町村など地域の関係機関との連携の窓口として「患者支援センター」を開設しました。

以前は、各種相談や入院時・退院時の支援を診療連携室、患者相談室、入退院センターという3つの組織が役割を分担して行っていました。それらの窓口を1つにすることで、外来、入院時、退院時、退院後と切れ目なく患者さんやご家族の支援を行えるようになりました。

同センターには医師、看護師のほか、MSW（医療ソーシャルワーカー）、管理栄養士、薬剤師、事務職員も所属しています。それぞれの職種が専門的な視点で患者さんの支援を行い、またセンター内で情報を共有することで、チームとして患者さんに関わる体制を整えています。同センターが病院と生活をつなぐ架け橋となり、病気になっても自分らしい生活を送ることができるよう、スタッフ一丸となってサポートします。お気軽にご相談ください。

■患者支援センター（外来棟1階）
☎0836-22-2482

定期的にカンファレンスを行い、情報共有しています。

患者支援センタースタッフ

患者支援センターの主な業務

入院前オリエンテーションの実施

入院前に必要な手続きや準備すること、入院中の療養生活について説明し、患者さんが安心して入院できるようにしています。

地域の医療機関などと連携してサポート

入院前から退院に向けて介護保険などの制度を活用し、地域の開業医の先生や訪問看護ステーション、地域包括支援センターや行政の方々など、様々な関係機関と連携しています。退院後も安心して生活していただけるようにしています。

各種相談を受け付け

病気のこと、お金のことなど様々な相談に応じています。また、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院として、がん相談や肝疾患相談にも対応しています。

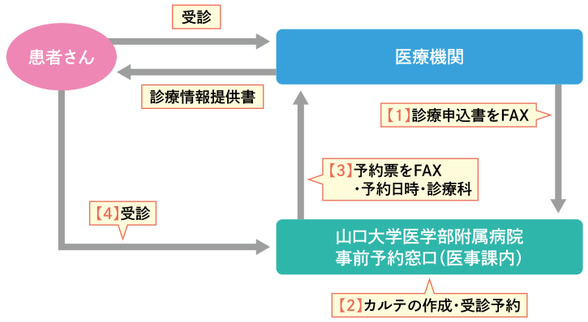
■相談内容／医療福祉相談、がん相談、肝疾患相談、患者申出療養相談、セカンドオピニオンなど

本院は地域医療連携を推進しています。

精密検査や手術、専門的な治療が必要な時は、かかりつけ医より本院へご紹介いただき、治療後病状が安定した患者さんは地域の医療機関等へ逆紹介しています。

事前予約窓口

かかりつけ医からご紹介していただく患者さんがスムーズに受診できるよう、事前予約窓口を設置しています。医療機関から FAX で申込をしていただくことで、外来受診の事前予約をとることができますので、ぜひご活用ください。



連携医療機関認定制度

患者さんの紹介が多い医療機関に認定証を発行し、本院との連携が図れていることを地域の方々に知っていただく取り組みを始めました。

本院ホームページに、
連携医療機関認定制度について
くわしく紹介しています。

山口大学医学部附属病院
連携医療機関認定証

○○○ 様

貴院を山口大学医学部附属病院の連携医療機関として認定します

認定期間 平成 年 月 日から
平成 年 月 日まで

平成 年 月 日

山口大学医学部附属病院長
○○○

Topic

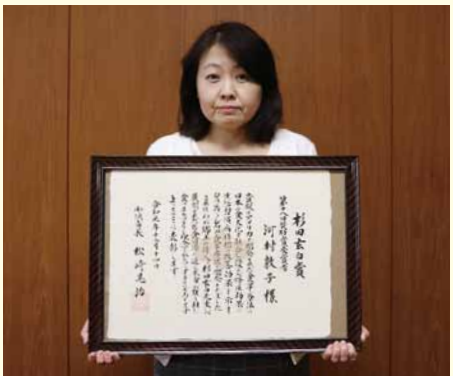
医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座 河村敦子講師が杉田玄白賞奨励賞を受賞しました

西洋医学と日本の食文化を融合させて生まれた DASH-JUMP食事療法の効果を検証

医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座の河村敦子講師が、第 18 回杉田玄白賞奨励賞を受賞しました。

杉田玄白賞は「食と医療」「食と健康増進」「食育と地域活動」の３つのテーマで進歩的な取り組みや研究を行っている団体や研究者を表彰するもので、今年は杉田玄白賞の該当者はなく、奨励賞に２名の研究者が選ばれました。

河村講師は企業との共同研究により、これまで日本国内ではあまり検証されていなかった米国で開発された DASH 食事療法を和食にアレンジした DASH 食事療法（DASH-JUMP）を考案し、その優れた血圧降下作用および高血糖や悪玉コレステロールなどの生活習慣病指標の改善効果を検証しました。また高血圧治療の専門家からも高く評価される学術誌 Hypertension Research に論文が掲載されるなど、研究成果を世界に向けて発信していることが評価されました。



Topic

世界初！ タンパク質修復のための 遺伝子誘導メカニズムを解明

神経変性疾患やがんの治療法開発に期待

医学系研究科医学専攻医化学講座の中井彰教授、瀧井良祐助教らを中心とした研究グループが、細胞内の異常タンパク質を修復するための遺伝子誘導メカニズムを世界で初めて発見しました。さらに、熱ショック転写因子 1（HSF1）とシュゴシン（SGO2）の複合体が形成できない条件下では、異常タンパク質の蓄積の亢進とそれによる細胞死の増加が引き起こされました。この複合体の発見は、加齢と関連する神経変性疾患などの治療薬の開発に結びつく可能性があります。

本成果は、分子生物学領域で権威あるヨーロッパの科学雑誌『EMBO Journal』の電子版に掲載されました。

くわしくは、
本学ホームページをご覧ください。

Topic

附属病院検査部 水野秀一臨床検査技師長が「緒方富雄賞」受賞

検査部の水野秀一臨床検査技師長が、第３５回「緒方富雄賞」を受賞しました。

同賞は、公益社団法人日本臨床検査同学院の初代院長故緒方富雄先生が制定された賞で、臨床検査領域の技術・教育を通じて医療の発展に貢献した臨床検査技師または衛生検査技師の功績をたたえ贈られるものです。水野技師長は、薬剤耐性菌に関する研究および臨床微生物学領域における教育活動が認められこのたびの受賞となりました。

水野技師長は「栄誉ある賞を受賞し、これまで私を育てていただいた山口大学医学部附属病院検査部の諸先生方、諸先輩方に感謝申し上げます」と受賞の喜びを語りました。

Topic ホスピタルカフェがオープン

ホスピタルカフェ「NOKI（のき）」が、B棟（第1病棟）1階（ローソン向い）にオープンしました。

店名の「NOKI」は、宇部の「宇」の字が「のき」と読むことから、軒やひさし、屋根を表す宇（のき）の下での癒やしや心のよりどころとなる空間となるよう名付けられました。

カフェでは、各種コーヒー、焼きたてパン、セットメニューなど豊富に揃えています。地産地消を推進しており、コーヒーは周南市の徳山 CoffeeBoy、ソフトクリームは周南市の藤井牧場で毎朝絞った牛乳から作るなど新鮮な商品を提供しています。店内は自由に利用することができ、飲食物の持ち込みも可能です。

また、フードサービス「TOMO（とも）」も併設。各種うどん・そば、丼物、カレーなど軽食を用意しています。

■営業案内

Hospital Cafe NOKI
営業時間　AM 7：00 ～ PM 9：00（年中無休）

Food Service TOMO
営業時間　AM 9：00 ～ PM 5：00（土・日・祝日休業）

Topic 附属病院薬剤師の提案で 錠剤粉砕補助器具「ハルカトバズ」が開発されました

本院薬剤部尾﨑薬剤師、硲薬剤師が提案したアイディアで、錠剤粉砕補助器具「ハルカトバズ」が開発されました。

薬剤部では一日に多量の薬剤を調剤しており、「正確さ」や「スピード」が要求されます。一般的に錠剤を服用できない患者さんには錠剤を粉砕化する調剤を行います。乳鉢と乳棒で粉砕する際に、錠剤が飛散すると調剤の分量に影響するため、最初から調剤をやり直すなど時間がかかる場合があります。また、錠剤の自動粉砕機なども販売されていますが、高価で導入できないこともあります。

誰もが使えて、錠剤の飛散を防ぐ装置はできないかという現場ニーズから、やまぐち産業振興財団、山口県産業技術センターとの産学公連携により、株式会社伸和精工（宇部市）が錠剤粉砕補助器具「ハルカトバズ」を開発しました。

ハルカトバズは、乳鉢に被覆して使用するものです。簡便な構造とし、安価で使いやすく、有りそうでなかった器具として、今後の医療安全に役立つことが期待されます。

栄養治療部

季節のレシピ

Seasonal Recipe

Today's menu

簡単 黒豆栗おこわ

正月に余った餅やおせちの残りの黒豆煮、栗の甘露煮などを使っておこわを作ってみました。お餅を入れることで普通のご飯がおこわのようなもっちりした食感になります。材料を炊飯器に入れて炊くだけなので、簡単です。

栄養成分

エネルギー 約300kcal
食塩相当量 0.3g

材 料　5人分

- 米…… 300g(2合)
- 水…… 350cc(2カップ弱)
- 切餅…… 50g(1個)
- 黒豆煮……80g
- 栗甘露煮…… 60g(5～6粒)
- 塩……1g

作り方

1. 米を洗い、ざるで水切りしておく。
2. 切餅、栗甘露煮を一口大に切る。黒豆煮の汁も切っておく。
3. 釜に米、分量の水、餅、黒豆煮、塩を入れて炊飯器で通常通り炊く。
4. できあがったら、栗の甘露煮を入れて3分ほど蒸らす。
5. よく混ぜてできあがり。
   ※好みでごま塩などをふってもよい。

炊き上がってから、栗の甘露煮をいれて3分ほど蒸らす

黒豆の栄養成分

参考文献：食の医学館

ダイズの一種であり、成分はほぼ一緒。
良質のたんぱく質、ビタミンB群、E、カルシウム、食物繊維を含みます。
リノール酸、レシチンの働きで動脈硬化の予防や腎・肝の強化に役立ちます。
不要な水分や老廃物を排出する働きもあり、むくみ改善も期待できます。
サポニンやアントシアニンを含み、黒豆の煮汁はのどの炎症をやわらげます。

◎監修：有冨早苗・福田有子

山大公式YouTubeアカウントに
新病棟紹介映像を掲載中!
ぜひご視聴ください。

オリジナル版　ダイジェスト版

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。
今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。

FAX 0836-22-2113　E-mail me202@yamaguchi-u.ac.jp
企画発行　山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号　TEL 0836-22-2007
医学部 http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/
附属病院 http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/